

坪井正五郎

ついでに

人類學・考古學者、理學博士。文久二年一月五

日江戸生れ、大正二年五月二十六日歿（八三—一九三）。筆名笑話老。

父は蘭方醫坪井信良。東京大學理學部卒。明治十七年人類學會を創設

し、十九年機關誌『人類學會報告』（のち『人類學雜誌』）を創刊。

歐洲留學後、二十六年帝國大學理科大學の人類學講座初代教授。日本

原住民コロポックル説の提唱者。ペテルスブルグで客死した。

著書に『日本通鑑』（杉浦重剛・富士谷孝雄・辰巳小一郎・棚橋一郎

共著、卷之一・明治二十年八月一巻之四、二十二年一月棚橋一郎刊、

折田學書院）、『工術技藝看極考』（明治二十一年十月折田學書院）、『遺跡遺跡考』

（昭和二十四年七月八日東洋社）、『人類談』（明治二十五年十月一

十日開成館「學藝叢談」）、『人類學講話』（明治四十年六月八日早

稲田大學出版部「早稲田通俗講話」）、『自然滑稽うしろのよだれ』（明治

四十一年十一月二十一日三教書院）、『自然びんるひがくのくわい

ひのかきとめ・一一七』（昭和十五年六月五日東京人類學會「人類學

叢刊甲人類學」）等。